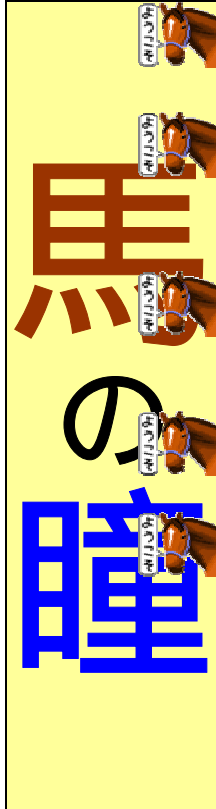


馬の瞳創刊 小島 貴志 挨拶

どうも、今月号の挨拶を任せられました小島です。
馬の瞳も5号となりました会員皆様からは多数の意見を頂き次号の参考とさせて頂いている次第であります。
今月号も皆様に読んで頂きこちらも嬉しい限りです。
すっかり秋らしくなってきた今日この頃、昼はまだ暖かいです。朝晩は冷え込むようになってきました。
季節の変わり目は体調を崩しやすいので、皆さん体調管理はしっかりしましょう。



第五号
H17.10.15

馬の紹介コーナー vol.5 ダンシングサンダー

ダンシングサンダー セン サラブレッド 平成元年生まれ
通称サンダー 彼がA.R.Cに来たのは平成8年でまだ競馬時代を終わって間がなく、去勢もされていませんでした。若いのにとっても落ち着いた素直で綺麗な栗毛の馬でした。
会長はものの一ヶ月で調教完了、三ヶ月後には三男元気(当時三年生)を乗せて連続障害を飛んで楽しんでいました。
障害のスクーリングホースで生まれて初めての人でも軽速歩でスイスイ走ってくれるので大人気でした。しかし大人気だった事で少し疲れてしまったのか?ここ2年程怒りっぽくなり初級から中級の馬に移行しています。
少し体は硬いものの、クロスカントリーもできオールマイティーな優秀な馬です。頭がいいので彼の心を掴めるかどうかは会員さん次第です。頑張ってください。



馬具のお話 vol.5

鞭

ムチには短鞭、長鞭、追い鞭と大きく3つのムチがあります。
皆さんに最も親しみ深いのが短鞭でしょう。
通常の運動または障害飛越の場合に短鞭は使われます、次に長鞭は、主に馬場馬術の調教練習に使われます。競技の際には使えません。追い鞭は調馬策を掛けるときに使用されます。
より楽しい乗馬の為に愛用のマイ鞭そろえては如何でしょうか?

2000円～8000円 長さ、カラー、デザイン、色々ありますので詳しくはスタッフまで



今月の大会

第37回 東海ホースショー 於:愛知県森林公園馬術場

10月1日～2日 愛知県森林公園にて第37回東海ホースショーを開催しました。
参加して下さった会員さん疲れ様でした!
会員さんからは永田竜識君、間宮理恵さん、吉安 さよ子さんが参加され大健闘いたしました。
11月には第38回東海ホースショーが開催されます。ふるって御参加ください。

JEF馬場馬術第4課目2004

高田 大介	フェスティバル	1位
-------	---------	----

JEF馬場馬術第3課目2004(long.)

高田 大介	カザリナ	1位
-------	------	----

星野 龍之介	パールレディ	3位
--------	--------	----

JEF馬場馬術第3課目 2004

永田 竜識	パールレディ	3位
-------	--------	----

間宮 理恵	フィンレイ	4位
-------	-------	----

JEF馬場馬術第2課目2004L&J

吉安 さよ子	パールレディ	4位
--------	--------	----



ウィンターキャンプ開催

夏のキャンプ好評につき、冬にウィンターキャンプを企画しました。
12月27日～28日の一泊二日でウィンターキャンプを開催します。夏には夏の、冬には冬の醍醐味があります。馬に乗って寒さなんて吹っ飛ばせ！輪を組んでキャンプファイヤーをしよう！
子供は風の子、一緒に楽しいキャンプにしましょう。
下記に簡易スケジュールを載せておきます。集え少年少女！

12月27日	12月28日
8:30 集合 開校式 荷物を合宿所に置く、着替え	6:30 起床
9:00 厩務 水やり	7:00 飼付け
12:00 昼食	7:30 朝食
13:15 厩務 水やり	8:15 厩務 水やり
14:00 小牧市温水プール	9:00 乗馬レクリエーション
17:00 A.R.C帰宅	11:00 昼飼い 水やり
18:00 バーベキュー&キャンプファイヤー ゲーム&フォークダンス	12:00 昼食
20:00 お風呂	13:15 厩務 水やり
21:30 就寝	14:00 運動会(種目近日発表)
	16:00 閉会式
	16:30 解散

なおおやつは300円まで(小学生～大学生)とします。ですがバナナは含まれません。
質問等ございましたらスタッフまで気軽に声をかけて下さい。



競技会告知



第38回東海ホースショー

11月25～27日愛知県森林公園にて第38回東海ホースショーが開催されます。
競技会に興味の有る方、自分の実力を試してみたい方ふるってご参加下さい。
競技内容、参加希望される場合はスタッフまでお願いします。



A.R.Cホースショー

11月6日(日)A.R.Cホースショーを開催します。多種多様な競技を準備してお待ちしております。
会員さんも参加して皆で盛り上げましょう！！
スタッフも会員さんに楽しんで頂く為に影で秘密特訓中(内容は当日発表)
ふるって御参加下さい。
参加希望される方はスタッフまでお申し付け下さい。



スタッフそれぞれ記事



高田大介コラム「信号」

笑顔は、人間同士の仲間である事の信号です。



好きな人とは話しかけたり、話が出来ない外国では笑顔を基本に手振り身振りでコミュニケーションを取ります。外国で笑顔無しで、言葉の通じない人とコミュニケーションを取ると多分1000回に1回は命を失う危険に遭遇し、100回に1回は身に危険を感じる事があると思います。笑顔を変えて話をすれば、10000回に1回に減らす事が出来ます。私のように悟りが開けられない人間は美人や可愛い人に笑顔で受け答えされただけで心臓が高鳴ります。楽しい人生を送る為には人間らしい事や悲しい事も乗り越えなければいけません。笑顔が大事です。楽天下、で無頓着では楽しい人生は送れませんが何事も前向きに良い方向に物事を考える事です。最近美人や可愛い人に笑顔で受け答えしてもらいたいと、良く思っています。楽しい人生を送る為のアイテムだけではなく、『妄想癖』がある前兆の信号です

高田葉子コラム「息子を思う」

最近、幼い会員さんを見るたびに、高田家の息子3人を良く思い出します。それはいつも、3人が小さかった小学生時代、めくるめく忙しい日々の中で、元気いっぱい顔ばかり……。小さい時は早く大きくなったらと願っていたのに、親の手から離れたいまでは小さい頃を懐かしむ、母親の身勝手ですね！秋も深まった、この頃では早くお正月休みに息子達が帰ってこないかなと思う私でした。

「海辺のメメ」 星野龍之介

メメは、その日早く目が覚めた。時計を見ると規則正しく動く針は、4時27分を指していた。彼女は、朝に弱い。普段6時に起きるよう心掛けていた彼女は、結局ベットに30分程ごろごろしている。朝が弱いだから、そんな時間に起きなくてもいいのに、と自分でも思うのだが、長年の習慣でそれがいつ始まったかも、もう忘れてしまった。なぜか毎日6時に目覚ましをセットし、6時半に起きる。それから、少し自分の体を丁寧になめる。尻尾の先まで綺麗になめ終わると、朝食を取る。すらっとしたシャムネコの彼女は、ご飯を食べると胃が少し出る。ポコッと出てきた自分の胃をさする。若い頃は少し嫌だったが、今では頑張って消化しようとしている胃をかわいく思う。また、退屈な一日が始まっていく。眠りに深くつぐ彼女は、途中で起きる事は少ない。そして、途中で起きたとしても意識がハッキリする事はまず無かった。しかし、その日の朝は違った。まだ薄暗い外を、窓からベットに腰掛け覗く。窓からは、白い砂浜が少し灰色がかって見えた。その先には、とても穏やかな表情を見せている海が、何かを語りかけるようにさざ波を立てていた。今日が彼女の運命を大きく変える一日だと、語りかけるように。若い頃の彼女はとても美人だった。今でも美人であるが、不必要な会話をせず、いつも一人でいる彼女を周りに住んでいる猫たちは、少し奇妙に思っていた。しかし、敬遠される事などなく挨拶はかわす。本当は、謎めいた性格などではなく、寂しがりやの甘えん坊であった。ただ、それを正直に他人に話せるほど器用な性格ではなかった。長い間、若い時、愛を誓った彼を一途に待っている間に、自然と周囲にそう思われるようになった。彼女は、そう思われている事もちろん知っていて、何も話さなかった。誰一人にもそれを秘密にしていた。だから、彼女はとても寂しい生活を送っていた。ただただ、同じ生活を繰り返し、ひたすらこの日を待っていた結果であった。

もう一度寝ようと思ったが、寝付けなかった。不思議と心は冷静さを保っていたし、ウキウキする事もなかった。昨夜も普段と同じ時間に床に付いた。あまりに長い時間待ち続けたからかもしれない。彼女自身も、自分が意外なほど平静な事にびっくりしていた。しょうがなく彼女は起き上がり、いつもの朝と同じように、体をとても綺麗になめながら彼が現れた時、自分がどういう反応をするのか考えた。また、彼が現れないかもしれないとも考えた。気が付くいつもの3倍ほどの時間をかけていた。もう一度外を眺める。もうすっかり明るくなった外は雲ひとつ無い良い天気だった。海には沖のほうに何隻か船が見えた。朝食を取り、胃をさする。ぽこっと出た胃に話しかける。彼は来るかな？きくと来るわ、胃が答える。少し椅子で休んだ後、日課になった散歩に出かける。本当にいつもと変わらない朝だった。岬まで歩いていき、岬で少し休憩する。それから、来た時と同じ砂浜を歩いて帰る。家に帰ってくると、玄関の前のロッジに有るロッキングチェアーに座り本当に穏やかな海を見る。そのまま、ウトウトとしてしまった。どれくらい、そうしていたかは分からない。左手が温かい。左を見ると彼がしゃがんで手を握っていた。自然に涙が出てきた。心臓の鼓動が耳に届きそうなほど、よく聞こえる。それが自分の鼓動なのか彼の鼓動なのかさえ分からなかった。何か言おうと思ったが言葉が出てこない。それは、無言のまま彼に伝わり、彼は頷いている。彼も喋ろうとしたが、言葉が出てこなかった。長い間、強く抱きしめあった。一言も喋っていなかったが、お互いの気持ちは良くわかった。彼らにとって失われた時間などもうすでにどうでも良かった。これから一緒に生きていける喜びに満ち溢れていた。そして彼が言った。「誕生日おめでとう、メメ」とも静かな昼下がりだった。

岸野豊のマイソロジー「続々々きっしの愛犬」

ようやく最近涼しくなったので、さくらを毎日散歩するようになって近くの公園で遊ぶのが大好きらしく外へ出るとそっちへ向って走って行きます。遊ぶときはボールを投げてそれを取って来たりしていますが、そのときボールを取って戻ってくる時の勢いといったら物凄くてヤバイです。で、気が付いたのですが犬も走って来る時に踏歩変換してるのですね。先月一度クラブに連れて来たのですがかなり人見知り激しく全然懐きませんでした。あまり僕以外の人と接しないから知らない人からは近寄ると逃げちゃいます。浜松の実家に連れて行ったときも僕が離れてくと知らない人ばかりなのでおどおどしてました。馴れてしまえばしつこいくらいくっついてくるのですけど…さくらは車で出かけるのも好きで良く遊びに連れて行きます。ただ動物病院にも行く事があるので、そのときは近くになると車の中で尻尾をまるめて怖がっています。やはり注射はイヤみたいです。注射のとき暴れたりほしくないんですけど、『しょんぼり』しています。もうちょっと心がたくましくなって欲しいと思います。

小島貴志のインナースペース「王蟲(オウム)の咆哮」

どうも、ここA.R.Cでインストラクターをしている小島です。万博、終わりましたねえ。結局ただの一度も行くことなく終わっちゃいました。未練はないですがやっぱり寂しいもんですね。話を聞いていると、「楽しかったあ、面白かった、また行きたい」だったり「人が多くて嫌だ」等等、人それぞれですねえ...何てしみじみと思ってみたりしています。おそらく自分は後者なので、これで渋滞することなく移動が

できる。なんてことも考えていたりします。もともと人ごみが嫌いなのでスムーズに物事が進まないことは我慢できない性質なんです。渋滞に巻き込まれた日には(その時の機嫌にもよりますが...)車の中で一人発狂しています(笑)。と、いうことで前言撤回!寂しくもないです(謝)。話は変わりますが、最近はずっかりなじんでしまった新参猫の『きらら』...その『おかあさん?』になってしまった(さらに?)私です。理由を聞いてみると「よく面倒をみているから」だそうです。そういうものなのか?と思いながら日に日に大きくなる我が娘(実は結構乗り気)に対して最近少し厳しく接しています。最初の頃は自分のご飯を1割程もあげてしまっていたのですが、きららが図に乗ってしまい最近ではだれかれ構わず何か食べている人の膝元にピョン!と飛び乗ってはにゃーにゃー鳴いておねだりをする毎日...会員さんにも言われこれでは駄目だ、と思い頑張っって人のご飯をあげないようにしています。いまさら、と言われてしまえばなにも言えないのですがしばらく足掻いてみようかと思ひます。

それと同時にそろそろ本格的に『ねずみ狩り』を覚えさせようと思うのですが...どうしたらいいですかね?何か知っている人はぜひ!御教授お願い致します。

さて、10月の東海ホースショーも無事終わり帰ってきたら...なんとびっくりきららが骨折?とてもぐったりして大丈夫かな?と思ひていたら次の日...元気に休憩室の中を歩いているではありませんか!?!と思ひきやたまに左前足をブラブラと...頼むから無理はしないでくれと本気で考えました。ですがその後は何事も無かったかのように歩いていました。...早くとちりだったみたいです

伊藤大介の中部屋「俺はこうして巡って来た。Vol05」

えー...今回は前回最後に少しお話ししました”榎本君”通称”エノ君”についてお話ししたいと思います。
エノ君は少し先まで僕と関わる事になるのですがそれはまた別の機会に...
エノ君は前期組の六人の内の一人で頭がキレ見た目も格好良くソコウ良い奴なんです。ただ...少し面倒くさがり屋、そこが玉に瑕。研修所でのエノ君と僕はそんなに深い友人ではなくエノ君は僕の事を『伊藤ちゃん』僕はエノ君の事を『榎本君』と呼び合う妙な仲。研修所は毎朝誰よりも一番遅く(起き誰よりも遅く)寮を出る、でも厩務作業は決った場所はキチツとやる。そんなある日、榎本君が乗馬練習をしていると先生が「今日は駆足を外(コースではなく放牧地)でやしましょう。」(普段は論議場でやっている)この時前期組で三人目(?)の外駆足だったので榎本君は少し緊張している様子でしたが、先生がやってみようとううのだから大丈夫なんだと甘く見ていました。論議場のタイヤで出来ている扉を開け榎本君が練習馬”エチケツ” (詳しく馬名を覚えていません以後エチケツ)”とともに馬場に出てくると広い所に出たせいか馬はいささか興奮気味で人間の方はと言いますと初めて外に出たもんだから緊張しまくりのガチガチ状態...とまアここまで書けば何が起るかなんてのは大体見当が付くでしょうが...まア詳細を。
榎本君が練習場に駆足の合図を出し最初はゆっくりと駆足をしていたのですが馬は興奮気味で榎本君はガチガチこの条件が揃うと曲がり角を何度も曲がるうちにだんだんと駆足が早くなってゆき僕達の目の前を通り過ぎるときにはもう『ギャロップ』になっており次の曲がり角を曲がった瞬間Uの字の所をV字に曲がって馬場の柵に向かって追突!...勿論上に乗っていた榎本君はエチケツが急ブレーキを掛けたもんだから”一本背負い”をくらい地面に”ドカッ!!”と音を立てて横たわりエチケツの前肢が榎本君のヘルメットを直撃!!榎本君は少し痛そうにしながらも立ち上がり大丈夫そう、問題は興奮気味に走り回っているエチケツの方。捕まえようとする研修生を蹴散らし暴れる暴れる!!それも先生が出てきてようやく捕まり一件落着。
その事件の後に乗せられる前半組みの研修生はとても怖そうに皆緊張しているようだった。僕達後期組みはその後別の馬に乗り練習したおかげで僕達は難を逃れました。けれど後に後期組みも走られる事になるのですがこれはまた別の機会に。

そんなこんなでアッとうまに前期組が帰ってしまう前日に
僕と『榎本君』と『白井君』あと後期組の『ノリさん』と『ミッチー』5人で遊びに行きました
遊びに行ったと言ってもご飯を食べに行っただけ(?)なのですが、
皮肉なもので何故か最後の日になって榎本君と僕とで話が合いその日から『大ちゃん』『エノ君』と呼ぶようになったのでした。

宗像義明の小言「艶緑の鉄格子 焦茶の波紋 純白の美麗」

富士は日本一の山、僕はあの山がとても好きです
幼少期、父親からやれ星を見に行こう、やれ雪遊びに行こう、やれ山登りに行こう
そんな父親は自然界の雑学王、富士山については聞かなくても勝手に喋り何故か自然と興味を持ってしまう自分と姉弟...時に樹海の話がありました、自然が作り出した牢獄だと父親は言っていました。
当時は実際に入った事が無かったので所詮は森...という認識しかありませんでした。
ですが父親の話の中には何故迷ってしまうのか?という科学的根拠に基づいた説明、それ以来自分にとってそこは死地以外の何物でもない脅威に成り代わりました。何故自殺志願者はあそこに向かうのか?まずはそこから話は始まりました。
理由は人それぞれだが死体の判断が難しくなる事から、そして見つけにくいと言う事からです。そこから何故見つけにくいのか?にうつりました。当時自分もコンパスが狂うという事は知っていましたがどうして狂ってしまうのか?と言う事までは知りませんでした。そしてそれこそ自然界が作り出した牢獄なのだを確信付ける最大の理由なのだを理解できました。
富士は活火山...だと思ひましたが、昔は頻りに噴火している山だったのは御存知でしょうか?山は噴火を繰り返して溶岩が積みもりひとまわり大きくなっていきます。その溶岩は当然固まり岩になります。富士一帯(樹海)の土の下にはその溶岩石が波のように連なっているのです。岩石は磁気を含んでいますのでコンパスは常にその影響を受けると言うわけです。
そしてその磁気は若干人間にも帯電し影響を与え幻覚作用を引き起こす事も有らしいです。真っ直ぐ歩いているようで実は見当違いの方向に進んでいたなんて事は当たり前にありますし、周りは似たような風景なので目印になるようなものはかなり限定されます。
そして林によって太陽の方角や影の位置などを掴み難い事から自然と方向感覚を失い、
最終的に自分の正確な居場所を確信付ける要素を失ってしまうわけです。その話を聞いて以来、富士山が恐くなって行かなくなった自分がいます。

実際そんな危ない場所の近くの山なんて理由があっても行きたくはありません。
当時小学3年生、父親が富士山に行こうと話をすると布団に包まり全力で拒否していました。
その姿は雷を本気泣きしながら怖がる風景にも似ていた事でしょう。ですが力づくで車に乗せられ泣く泣く富士へ...
そして到着したのは富士山に入る一歩手前の中途半端な山道。
眼前の富士と目の前の森...これ樹海ジャン!笑いながら森へ入っていく父親、
不安と恐怖に彩られながらも父親に手を引きずられながら付いていく自分。100m程入ったら本当に方向感覚が判らなくなっていました。
あゝ終わったMY人生、などと考えるとやけに開けた場所に出ました。
クレータ(?)のような窪みに腐りかけた木造の梯子がある、父親に付いていき降りたとき周囲の空気が突然重くなった気がしました。
目の前には巨大な洞窟が口を開けており一面水分を過剰に含んだコケが広がっていました。
その洞窟は富士の雪解け水が一度必ず通る水脈の端で夏と冬では洞窟内の面積が大幅に変わる不思議な空間でした。
人間手付かずの自然洞窟、それを直視した時には樹海の恐怖は消え去り生で見た洞窟に対しての好奇心が上塗りされていました。
あゝ...子供って単純。洞窟の名は『風穴』今では自然保護区になり制限が掛かってしまった為冬には行けなくなりましたが
樹海と言う死地にもナチュラルな美がそこにはあるという事だけは忘れられない出来事でした。